

屋部川の河口にすむ生き物たち ～モーイはなぜ取れなくなったのだろうか～

名護市立屋部小学校

3年 伊差川実怜

1. 目的・動機

私は、おじいちゃんとおばあちゃんのお家の目の前に広がる海にモーイ（イバラノリ：紅藻）や貝やタコをよく獲りに行きます。しかし最近、おじいちゃんは魚（ミジュン：和名ミズン）が取れなくなったと言います。なので、その原因が知りたくて屋部川が変わってきた様子や、お家の前の海とその周辺の河口域に住む生き物を調べて、生き物がいなくなった（少なくなった）原因を調べてみることにしました。



2. 方法・内容

(1) 方法

- ①屋部川の河口や海岸に住む生き物の種類やその特徴を調べる
 - ・干潮の海や干潟に入り、生き物の種類を調べる
 - ・釣りや投網をしている人から獲っている生き物を調べる
- ②昔の屋部川のとれた魚や貝などの聞き取りをして、今のとれる生き物と比べる
 - ・おじいちゃんやおばあちゃんからの聞き取り
 - ・地域に詳しい大人からの聞き取り
 - ・名護博物館の専門家からの聞き取り
- ③屋部川の河口周辺の環境の変化を調べる
 - ・最近の護岸工事とその後の変化について
 - ・昔と今の屋部川河口域の護岸の変化を調べる

(2) 疑問

- ①なぜ、お家の前の海でモーイが取れなくなったのか
- ②どのような生き物が屋部川河口周辺にはいるのだろうか

(3) 調査

- ①過去の屋部川河口周辺の聞き取り調査（屋部川河口周辺の昔の話）

- ア. おじいちゃん（70代）からの聞き取り・・・40～60年前
- ・昔の川の屋部川の水は澄んでいて、とてもきれいだった
 - ・投網いっぱいにとれた魚介類が、今では獲れなくなった
（ミジュンの群れが海岸近くに来なくなった）
 - ・海が汚れ石や砂に泥がかぶると、海藻が育たなくなる

イ. 地域に住む (40代男性) 大人からの聞き取り・・・30年前

- ・上流に畑や豚舎が多かったころは、ひどく汚れていた
- ・上流の赤土や農業の廃棄物が垂れ流されていて魚も多い汚い川だった

ウ. 名護博物館の学芸員さん (村田さん) からの聞き取り

- ・汽水域の範囲が広く、多くの生き物が行き来する川です

・新種の魚介類がまだ見つかるかも

エ. おばあちゃんからの聞き取り (3月～5月のモーイやチヌマタの収穫について)

- ・10～20年前は、海に人もいっぱい出てたくさん収穫できた

※2～3年前から極端に獲れなくなった

- ・海に生えているのを腰まで浸かって収穫した
- ・5～6年前は、一輪車のいっぱいウニが獲れた (最近は取れていない)

②現在の屋部川河口域の変化



※泥が流れ込んで、茶色になった干潟

③お家の前の海岸の生き物の調査

見つかった生き物

- | | |
|-------|------------------------|
| 海藻類 | ホンダワラ類、ヒトエグサ、カイメンソウ |
| | センナリズタ、※石に少しだけ自生していた |
| 貝類 | オハグログキ (石に付着)、ウミニナ |
| アワモチ類 | イソアワモチ (少ない) |
| ナマコ類 | クロナマコ (少ない) |
| 魚類 | コボラ、ボラ、チヌ、ヤマトウビ、トントンミー |

ヒトデ類 ウデフリクモヒトデ (少ない)
ヤドカリ類 マダラヨコバサミ (石の周辺に多い)
エビ・カニ類 モクズガニ (石の下に多い)

④干潟の観察から気づいたこと

ア. 生き物の死骸の特徴

- ・サンゴや二枚貝の古い骨が多く、泥がついていて灰色になっている

イ. 浜辺や干潟の砂地の特徴

- ・周辺の白い砂浜の海岸と比べて灰色の砂が多い
- ・石や砂の表面に灰色の泥がついている

ウ. 干潟の生き物の種類の特徴

・泥や砂地を好む魚介類が多い

- ・生き物の種類が近くの砂浜と比べても少ない
- ・生きているサンゴはいなく、砂中の貝類もない

①



投網による採集 (昼)

②



泥のかぶった砂地と貝とサンゴの死骸

③



泥の多い砂地 (貝の採集)

④



定着の悪いカイメンソウ (紅藻)

⑤



夜の投網を使った採集

⑥



オキナワハゼ

⑦



カニに寄生する生き物

3. 結果

5年前から始まった護岸工事（昭和49年度～平成26年度事業）の影響で、河口の流れに変化が起きて泥が流れ込むようになった（河口流域の流れの変化）。そのために、河口付近で生きていたサンゴや海藻類が上流から流れ出る泥（赤土）の付着によって、死んでしまい、そこをすみかとする魚介類も減ってしまった。しかし、その後に泥の海岸が好きな魚介類が新たにすみつくようになり、河口付近の生き物に入れかわりが起こった。

人間が作った護岸が、そこに住む生き物の生活に変化を起し、そのあとにそこで生活する私たちの食べ物や活動に変化を起していることが分かった。

4. 考察（まとめ）

最近ではモーイが取れなくなり、海藻類やその周辺に住む生き物をエサにやってきた小魚（ミジュンやスク）も同時に海岸に近づかなくなってしまった。そのせいで、海で潮干狩りをする楽しみが少なくなった気がします。お姉ちゃんと一緒にタコを取ったり、目の前にある海で遊びながらたくさんの食卓のおかずを取ってきてくれたおじいちゃんのお家の前の海が、たくさんの生きものいる海に戻って欲しいのです。しかし、台風の影響を考えると生活の安全が大切なのかもしれません。

今回の調査のまとめは、屋部川の河口の周辺のようなすや植物のちがいが、場所によって変わる生き物の種類をくらべながら、屋部川の変化してきた歴史やそこに住むたくさんの生き物の変化を知ることができました。そのほかにも同じ河口域として、宜野座村の湊原海岸や屋我地大橋の周辺の羽地内海河口域も生き物の種類をくらべてみました。それぞれに河口域の違いがあつて、そこにおもしろい生き物がいて、その疑問と生き物を観察する自然の不思議なことに興味をもちました。次回はもっと細かく調べて、山と海の生きものつながりなどもしらべてみたいと思いました。

新報サイエンスクラブを通じて、好きなことをいろいろな見方で調べるアイデアを勉強できたことは今年の夏の一番の思い出です。ありがとうございました。

5. 参考書籍

- ・名護博物館 2012 「発見！私たちのすむ名護の川と自然」 大宮印刷
- ・喜屋武一三 2004 沖縄生物研究会「フィールドが！沖縄の生きものたち」新星出版株式会社
- ・比嘉利行 「獲る・遊ぶ・観察する！沖縄の潮干狩り」フィッシング沖縄社
- ・沖縄県立博物館特別展図録 1992 ー沖縄の貝類 文進印刷株式会社

6. 調査に協力してくれた人

- ・名護の宇茂佐のおじいちゃんやおばあちゃん（聞き取り）
- ・お父さんとお母さんと2人の妹
- ・名護市宇茂佐に住む、市議会議員の岸本洋平さん（聞き取り）
- ・名護市立博物館 学芸員 村田尚文さん（夜の西屋部川河口域の生きもの採集）
- ・中学校の理科の先生をしていた西銘美恵子さんと安座間利恵子さん